

# 令和5年度 学校評価総括表

( 徳島県立徳島科学技術高等学校 全日制課程 )

## 本年度の具体的目標

### テーマ

規範意識や倫理観の高揚に努め、豊かな人間性を育むとともに、SSHでの取組を主体的・対話的で深い学びの実現につなげ、目標や課題に粘り強く挑戦するチャレンジ精神や、社会の変化に対応できる力を養う教育を推進する。

- ①文武両道を実践し、夢や目標の実現に向けて、何事にもチャレンジ精神をもって、主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。[主体的・協働的に取り組む姿勢の育成]
- ②社会的・職業的自立に必要な知識・技術・技能・態度を身につけ、社会の変化や技術の進展に対応でき、地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。[専門教育の推進]
- ③「徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ」に基づき、変化が激しく、予測困難な時代や社会を生き抜く力を身につけるキャリア教育を推進する。[キャリア教育の充実]

年度総合評価( A : 十分達成できた、B : 概ね達成できた、C : 変化の兆しがあった、D : 達成が不十分であった )

具体的目標	①主体的・協働的に取り組む姿勢の育成	②専門教育の推進	③キャリア教育の充実
番号	1～8	9～18	19～23
総合評価	B	A	B

### ① 主体的・協働的に取り組む姿勢の育成

学校自己評価								
年度目標					年度評価( 3月1日現在 )			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
1	課題学習の工夫や個別指導を充実させることにより、生徒の個性を伸ばし、主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。 (教務課)	基礎・基本の定着を図り、それを活用した実践的な知識や技能を身につけさせる。	教育活動の中で、生徒の実態に応じて、生徒タブレットを活用することで、授業での気づきや発見を大切にして、自らの考えをまとめ、伝えることを通して他者と協働しながら主体的に学習する力を養成する。	① 今年度授業評価における理解度のポイント数を昨年度の0.1ポイントアップを目指す。 ② 今年度授業評価における主体性(授業準備、授業態度、興味関心)のポイント数を昨年度の0.3ポイントアップを目指す。	(評価指標による達成度) ①今年度の授業評価の理解度は2.37ポイントアップした。 ②今年度の授業評価の主体性は1.34ポイントアップした。 (活動計画の実施状況) タブレットの活用は通信環境の問題により一部の授業にとどまっているが、Classiの利用については徐々に定着化している。	(達成度) B (所見)今後さらにClassiを学校生活や課外活動を増やし、生徒の主体的な取組を定着させていきたい。	理解度の2.37ポイントの向上については、電子黒板やデジタル教科書を用いた授業形態が定着したことが要因である。主体性についても1.34ポイント向上していることから、授業の各場面においてICTを効果的に活用することにより、さらなる向上が期待できる。	今後、生徒タブレットが充実し通信環境が改善されることで、生徒が主体的に授業で活用できるようになれば、さらなる効果が現れると考える。また、Classiを活用し各生徒が自らの活動や取組をまとめたり、発信したりすることで学習を定着させていきたい。
2	全教職員による人権教育の体制づくり (人権教育課)	HR活動の計画実施をはじめとして、人権教育活動の改善を行う。	HR活動の立案・実施においてはクラス担当全員が関わるとともに複数クラス・またはコース内での連携を図る。	学校評価(生徒)人権教育に積極的に取り組んでいる、「そう思う」が昨年より5ポイントアップ	(評価指標による達成度) 0.04ポイント増(4.32→4.36) (活動計画の実施状況) 計画通り実施し、クラス担当及び複数クラス全員での協議による指導案の立案の仕組みが確立したと考えている。	(達成度) B (所見) 複数教員による多角的な視点による授業の立案が生徒にも実感できる取組みとなるよう充実させていきたい。	評価は微増であったものの、複数教員による人権HR活動の指導案立案については一定の効果があつたと考えられる。また、今年度は講演会等全て対面で実施でき、講師の方から直接話を聞くことができたことも生徒にとってより理解を深めることができた要因であつたと考えられる。	複数教員による指導案立案の仕組みが確立したことから、今後はより効果的にこの仕組みを活用することが期待される。また、TT、正担任以外の授業実施を推進することにより人権HRを生徒に広い視野で人権を捉え深く理解させる場としたい。
3	学校行事等への積極的参加 (特別活動課)	本校の学校行事について詳細を生徒に連絡する。	担任を通じて生徒への連絡の徹底をする。	アンケート結果等で前年を上回る。	(評価指標による達成度) 学校行事の参加は概ね良好 (活動計画の実施状況) 担任の指導等により昨年よりできていた。	(達成度) B (所見) 概ね良好。より一層の積極的参加が望まれる。	新型コロナウイルスの第5類移行により、例年通りの行事の開催ができ、生徒も楽しんで参加できていた。	今後はより一層の生徒会主導の学校行事運営をしたい。その結果、一般生徒の積極的参加につながることが望ましいと考える。

4	保健安全に関する指導・情報提供を行う。 (保健厚生課)	生涯を通して、健康で活力がある生活を送るために、健康の保持増進に関する指導の充実を図る。	定期健康診断や保健だよりの発行等により健康に関する情報提供を行う。	①定期健康診断受診率 100% ②保健だよりの発行 (月 1 回)	(評価指標による達成度) ①定期健康診断受診率 99% ②保健だよりの発行 100% (活動計画の実施状況) ①未受診者に対して学校医・歯科医の協力により、受診率 99%にすることができた。 ②保健だよりを月 1 回発行	(達成度) B (所見) 長期欠席等で、全員が受診することができなかったものもあった。	①学校医・学校歯科医の協力により、定期健康診断を実施し、必要に応じて受診指導することができた。 ①月毎の保健だよりだけではなく、健康診断や修学旅行等の学校行事により、時宜を捉えた情報提供が行えた。	①定期健康診断の重要性・必要性を伝え、次年度も受診率 100%をめざすとともに、二次検査(精密検査)の受診率の向上を図る。 ①引き続き、月毎の保健だより発行だけでなく、学校行事等の機会を捉えた保健指導により情報提供を行う。
5	環境整美委員を中心に、担任や清掃分担の教員の協力のもと、校内美化を徹底する。「清掃で心を磨く科技高生」を実践する。 (環境教育課)	日々の清掃活動を充実させ、集中して勉学に取り組める環境整美に努める。	校内美化週間期間中、環境整美委員を中心に清掃とゴミの分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓、校舎内へのグラウンドの土の持ち込みを減らす。	日頃の清掃とゴミの分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓、校舎内へのグラウンドの土の持ち込みを減らす。	(評価指標による達成度) 日頃の清掃・ゴミの分別・掲示物等の整理整頓は概ね良好。土の持ち込みは改善傾向だが継続が必要。 (活動計画の実施状況) 環境整美委員を中心に日常の清掃・ゴミ分別の徹底に取り組んだ。また、体育祭や文化祭でも率先して環境美化の啓発に努めた。	(達成度) B (所見) 概ね良好。ロッカーの整理整頓に多少改善が必要。文化祭での食べ歩きは問題。	『清掃で心を磨く科技高生』のスローガンの下、環境整美委員会を中心に学校全体で環境整美に取り組み、効果があった。また、本年度は老朽化した便座と普通教室のカーテンの交換を実施することができた。	環境整美委員会を中心に HR 担任および清掃分担の教員の指導の下、引き続き環境整美を徹底する。また、アンケート調査等により清掃状況を把握し、環境美化週間に反映させる。校外で実施される体育祭、文化祭など学校行事ではより啓発に努める必要がある。
	防災委員、防災クラブの活動をベースに、地域住民と協働し、災害時に命を失わない態度を育成する。	地域と共に防災活動を行い、社会の一員として求められている防災マインドを育てる。	地域と共催の防災訓練を企画、実行する。	他団体と共催し、200 名以上の防災訓練実施を目指す。	(評価指標による達成度) 地域住民の方や徳島西消防署の方と連携して防災訓練を実施できた。 (活動計画の実施状況) 7月の地震津波災害にかかり防災避難訓練では、地域の方に参加してもらい実施することができた。また、12月に行われた火災避難訓練では徳島西消防署の方に来校していただき、講評やアドバイスをいただいた。	(達成度) B (所見) 概ね良好。ただし7月の防災訓練では暑さにより地域の幼稚園の参加ができなかった。今後検討の必要があると感じた。	地域の方や消防署の方の参加により、より実践的な訓練に近づいたと感じた。また、避難経路の再検討を行い以前よりスムーズに避難を完了することができたと感じた。	7月の防災訓練では気候を考慮して実施するタイミングや実施計画を検討したい。12月の避難訓練の際に行った炊き出し訓練では非常食配布でうまくいかなかった。次年度の課題として目標に加えたいと思う。
6	生徒が安全で安心して生活できる教育環境を整える。 (生徒課)	教育活動全体を通して、全生徒に「いじめは絶対に許されないこと」との理解を促し、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。	いじめ・体罰被害アンケートや面談を通して早期発見に努める。	年3回のいじめ・体罰被害アンケート、年2回以上の面談を実施する。	(評価指標による達成度) 予定以上の時間を設けることができた。 (活動計画の実施状況) 年間行事の各学期末に、HR活動の時間を設定し、いじめ・体罰被害アンケート調査を実施した。また、1学期・2学期当初、夏季休業日中に面談期間を設け実施した。	(達成度) B (所見) 早期発見、未然防止に努めることができた。	アンケート調査結果や面談から、生徒からの相談、悩み、情報提供を受けて、組織的に対応し解決の糸口となった。	未然防止のためにも、生徒と教員の信頼関係を高めていきたい。また、「いじめ防止委員会」を設置し、生徒達自身が、いじめをしない雰囲気をつくれるようにしていきたい。
7	生徒、保護者、教員に対する教育相談活動の充実 (教育相談課)	欠席の増加や表情等、生徒の変化を見逃さず、適切にカウンセリングを行うための学校全体の相談体制を整える。	カウンセリングの広報を行うとともに、スクールカウンセラーや専門機関との連携を図る。	「ほっとだより」を月1回発行する。	(評価指標による達成度) 目標の半分であった。 (活動計画の実施状況) 2か月に1回程度の発行にとどまった。	(達成度) B (所見) 中学生の頃からの不登校生が多く、進路変更という結果に結びついた。	カウンセリングが浸透し、特別なことではなく、当たり前になりつつある。学校経由で外部機関と連携するケースはなかった。	不登校生の増加に伴い、情報共有の手段が重要になってくると思われる。その一方、柔軟で多様な進路選択のあり方を受け入れる研修の機会が、教員、生徒、保護者に必要である。

②専門教育の推進

学校自己評価								
年度目標					年度評価( 3月1日現在 )			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
8	SSH事業の取組を行うことにより、理数系教育を通して、科学技術人材の育成を図る。 (SSH部)	SSHの取組により、生徒の興味や関心を持たせる。	魅力あるSSH事業を展開し、理科・数学への興味や関心を向上させる。	「SSHの各種事業に参加して、科学技術に興味・関心が増した」70%以上	(評価指標による達成度) 68.8% (活動計画の実施状況) ・生徒研究発表会を実施 ・運営指導委員会を2回実施 ・ADT、PRT、サイエンスカフェなど校内の講演会等を実施 ・校外の各種発表会や講演、フォーラムに参加 ・台湾蘇澳海事への訪問交流を行い、姉妹校協定を締結	(達成度) A (所見) II期目最終年となった今年度は、コロナ禍も去り、校外活動などを活発に行うことができた。	各コース1テーマ以上の研究発表が実施でき、科学への興味・関心を高めることができた。また、総合型選抜入試等での自己PRに大いに役立つなど進路実現にも繋がった。また、すべての取組を通じて生徒の科学的思考力の向上に繋がったほか、国際的なコミュニケーション力の向上にも繋がった。	第III期初年度の取組として、これまでの取組を継続・拡充していきながら、新規取組とについて実施していく。また、これまでの本校の取組によって得られた教育成果を周辺校へと普及する。
9	工業の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向に適切に対応し得る人材の育成を目指す。 (情報科学コース) (環境科学コース)	工業教育のそれぞれの特長を生かした教育を推進し、実験・実習や課題研究、インターンシップ等の体験的な教育活動を展開する。	大学と連携した講義やオープンキャンパスへの参加を実施する。 (情報科学コース) (環境科学コース)	年3回以上実施する。	(評価指標による達成度) 大学訪問1校、研究所訪問5カ所、高大連携実験講座(1年)、サイエンスカフェ(2年) (活動計画の実施状況) 概ね予定通り実施できた。	(達成度) A (所見) 概ね計画通り実施できた。	新入生の進学への意識を高めることに役立った。大学生から講義を受けることで将来の研究や大学進学への期待を持たせることができた。先端の技術や研究を知ることで科学への興味関心が高まった。	生徒の進学意識の高揚に効果があることから継続して取り組みたい。新たな大学や研究所訪問を実施できるように次年度の計画を立てたい。
10	(機械コース) (生産システムコース) (電気コース) (情報通信コース) (環境土木コース)		インターンシップを通じて企業との連携を密し、キャリア教育につなげる。 (機械コース)	2年生の30%以上の生徒に対して、インターンシップを実施する。	(評価指標による達成度) 2年生のインターンシップについては36.4%の生徒に対して実施した。 (活動計画の実施状況) クラス全体の進路に対する意識向上になった。	(達成度) A (所見) 概ね計画通り実施できた。	授業で学んだことが仕事でどのように活かされるのか知る良い機会となった。インターンシップはキャリア教育を推進する上で非常に効果的であった。	来年度も同様にインターンシップを実施し、キャリア教育を推進するうえで、生徒ができるだけ関心を持つことができるよう工夫する。
11			キャリア教育を推進し、インターンシップを通して、地元企業との連携を密にする。 (生産システムコース)	就職希望者(対象:2学年)の40%を対象として、インターンシップを実施する。	(評価指標による達成度) 就職希望者の55% (活動計画の実施状況) 2日間のインターンシップに参加することができた。	(達成度) A (所見) 概ね計画通りにできた。	生徒も、就職に向けて、貴重な職業体験ができ、良い機会となった。また、実施企業からもこの体験が県内の企業への就職につながることを期待できる。	今後も実施できるよう、企業との連携を図り、より充実したものとなるように実施していきたい。
12			インターンシップを通じて企業との連携を密し、キャリア教育につなげる。 (電気コース)	インターンシップに2年生の20%以上の参加を目指す。	(評価指標による達成度) 2年生の就職希望の57% (活動計画の実施状況) 2日間のインターンシップに参加し、生徒の進路に対する意識向上になった。	(達成度) A (所見)企業の協力で実施することができた。	企業での研修は生徒の進路に対する意識向上と専門学習の良い機会となり、将来の進路選択により影響が期待できる。	企業との連携を深め、今後も継続して実施していきたい。
13			インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。 (情報通信コース)	インターンシップに2年生の20%以上の参加を目指す。	(評価指標による達成度) ほぼ100%の参加 (活動計画の実施状況) インターンシップ1社と会社見学1社で行った。積極的な参加希望があった。	(達成度) B (所見) 大学との連携ができなかった。今後の課題である。	インターンシップ、会社訪問に参加した生徒は、興味・関心を持って取り組めた。将来の進路選択により影響が期待できる。	比較的早くから企業と連絡できたため、よい時期に開催できた。今後も選択肢を広げながら実施していきたい。生徒のニーズも踏まえながら大学訪問も実現したい。

14		<p>実習・課題研究について、社会人講師を活用やインターンシップを通じて、最新技術の習得や地域との連携を更に充実させる。 (環境土木コース)</p>	<p>就職希望者全員がインターンシップに参加できるようにする。</p>	<p>(評価指標による達成度) 64%の生徒が参加 (活動計画の実施状況) インターンシップに参加した生徒は、クラス全体の進路に対する意識向上に貢献した。</p>	<p>(達成度) A (所見) 企業の協力で実施することができた。</p>	<p>企業での研修は生徒の進路に対する意識向上と専門学習の良い機会となり、生徒にも好評であった。</p>	<p>今後も継続して実施していきたい。</p>	
15		<p>専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し、各種資格や検定の合格者または合格率の増加を図る。</p>	<p>有益な資格を取得させ、検定の合格を目指す。 (建築コース)</p>	<p>有益な資格取得を目指し、生徒1人あたり3つ以上の資格を取得する。</p>	<p>(評価指標による達成度) ほぼ全員が達成 (活動計画の実施状況) 2級建築施工管理技士補では、90%以上合格</p>	<p>(達成度) A (所見) 高い目標を持って取り組むことができた。</p>	<p>企業での研修は生徒の進路に対する意識向上と資格の大切さを知る良い機会となり、生徒にも好評であった。将来を見据え資格試験に取り組むことができた。</p>	<p>今後も継続して実施していきたい。</p>
16		<p>実習・課題研究を充実させ、コース展や各種コンペに参加し、地域との連携等、対外的な活動を更に充実させる。 (総合デザインコース)</p>	<p>課題研究の作品を各種コンペに出品し、入賞10以上を目指す。</p>	<p>(評価指標による達成度) コンペ7入賞 (活動計画の実施状況) コース展を実施し、各種コンペに応募した。美術館との連携活動に参加した。</p>	<p>(達成度) B (所見) 各種コンペに参加したが、入賞10以上には至らなかった。</p>	<p>実習や課題研究で製作した遊山箱がきっかけとなり、県内でグローバルに活躍している木材加工会社との連携の計画があり、今後とも対外的な活動を充実させていきたい。</p>	<p>各種コンペには今後も積極的に参加していきたい。また、企業との連携を通じて、デザイン力や技術力の充実を図っていきたい。</p>	
17	<p>専門性の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向等に適切に対応できる人材の育成を目指す。 (海洋科学コース) (海洋総合コース)</p>	<p>専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し、各種資格や検定の合格者または合格率の増加を図る。</p>	<p>専門分野への理解と学習意欲向上のため資格取得を奨励し、有益な資格や検定等の合格を目指す。</p>	<p>係船や漁具製作に必要な基礎的な技術の習得率90%以上を目指す。</p>	<p>(評価指標による達成度) 合格率97% (活動計画の実施状況) 漁業技術検定における実技試験(漁具製作)の合格率97%</p>	<p>(達成度) A (所見) 繰り返し反復して練習に取り組むことで技術を習得することができた。</p>	<p>放課後に練習場所や道具を提供することで、自主的に技術の習得に取り組む生徒も見られた。今後も継続して実施していきたい。</p>	<p>実技のみの合格率は97%であったが、筆記試験の結果も合わせた総合の合格率は90%であったので、筆記試験の対策を充実していきたい。</p>

③キャリア教育の充実

学校自己評価								
年度目標				年度評価( 3月1日現在 )				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
18	生徒の希望に添った進路指導と進路達成に向けて学習指導の充実を図る。 (進学課)	生徒一人一人の希望や適性に対応した進路指導を展開するとともに、進路ガイダンスや講演会等を通して、キャリア教育の充実を図り、社会人として自立できる資質や自ら進路を決定できる能力を養う。	幅広い情報の収集を図り、進路情報の提供に努める。進路講演会等とおして、キャリア教育の充実を図る。	適性・希望に対応した進路指導に対する満足度 80%以上	(評価指標による達成度) 満足度 93.9% (活動計画の実施状況) 大学訪問や説明会への参加を通じて、多くの情報を得ることができ、生徒の進路選択の幅を広げることができた。	(達成度) A (所見) 生徒、保護者、教員に進学に対する情報等を提示することで、進路実現に向けて計画的に取り組めるよう改善を目指したい。	講演会や進学説明会等への参加を通して、生徒が自分の将来の生き方や進路について考える機会となった。	今年度と同様の結果を残すことができるように計画を立てて取り組む必要がある。キャリア・パスポートの活用や課外活動等を通じ、年間を通して、生徒たちが自己理解を深める機会を設ける。
19	個々の希望と適性に合った進路指導を行う。 (就職課)	進路への興味・関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観と勤労観を養う。	幅広い情報の収集を図り、進路情報の提供に努める。進路講演会等とおして、キャリア教育の充実を図る。	適性・希望に対応した進路指導に対する満足度 80%以上	(評価指標による達成度) 満足度 93.9% (活動計画の実施状況) 就職室前掲示板の改善に取り組むことができた。	(達成度) A (所見) 保護者に対しての進路指導の情報提供等の改善を行う。	講演会をとおして、生徒自ら進路について考えるきっかけとなった。	アンケート結果より保護者の満足度が数%低い。保護者への進路情報の充実を図る。
20	社会的・職業的自立に必要である社会の変化に対応でき、地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。 (教育情報課)	読書の奨励を図り、基礎学力の向上と生涯にわたり学び続ける能力を育てる。	図書館の積極的な活用を図り、読書の奨励を行う。	図書貸出数が月間 300 冊以上を目指す。	(評価指標による達成度) 図書貸出数が月間 163 冊であった。 (活動計画の実施状況) 図書館オリエンテーション(1学年)、図書館だより発行(10回)、コース別推薦図書リスト作成(4種)、図書展示・読書推進イベント、県立図書館との連携、読書感想文課題の実施、各種コンクール応募案内、図書委員会活動:推薦図書POP作成(2回)、文化祭展示	(達成度) B (所見) 月間貸出冊数は、目標値に届かなかった。	新入生オリエンテーションや広報・展示・イベントを通じて図書館利用を働きかけたが、あまり貸出数に繋がらなかった。 コロナ禍により生活が変化した影響から、図書館で本を借りて読書をするという習慣を身につける機会を逸してきたということも要因として考えられる。	高校生活を通して読書習慣を身につけさせるためには、1年生への利用の働きかけが重要であると考え、また、課題研究や進学、就職に向けての学習に図書館を活用してもらえるように環境を整え、各教科担任や各コースの先生方と連携して利用を働きかけていきたい。
21	生徒が働くことへの理解を深めるために、家庭・地域・企業との連携と周知を図る。 (総務課)	生徒の職業観・勤労観確立を目指すために、PTA活動への積極的な参画を進め、保護者と教員がより頻繁に意見を交換する機会の充実に努める。	PTA 総会での議案にもとづく PTA 活動に、保護者・教員が協力して学校運営を支援する関わりを通して生徒の進路実現を図る。	①コロナ禍で実施できなかった PTA 総会を開催する。 ②体育祭・文化祭関係の四役会への役員の参加 90%以上 ③PTA 活動の参加の返事をチャット便から Classi に移行し、ICT 化を図る。	(評価指標による達成度) PTA 四役の参加率は 80%であった。 (活動計画の実施状況) PTA 総会を 4 年ぶりに対面で実施できた。PTA 活動の四役会及び交通安全指導の出欠を Classi のみで行い ICT 化を図ることができた。	(達成度) B (所見) PTA 総会を 4 年ぶりに実施でき 192 名の参加があった。PTA 四役の参加率については、PTA 本部役員 21 名中 16 名出席しており PTA 活動は十分できたと思われる。また、Classi による案内の ICT 化は進めることができた。	PTA 本部役員を 21 名に増員しての 1 年間 PTA 活動を行い PTA 本部役員間での引継及び PTA 活動がうまくいくよう PTA 活動の説明をより丁寧に行い、PTA 四役会での協議内容をより生徒のためという視点で、生徒・保護者・教員相互の連携を深めていきたい。	PTA 総会を対面で実施できたことなど PTA 活動を制限なく実施できるようになっている。このことを踏まえ、PTA 活動の説明をより丁寧に行い、PTA 四役会での協議内容をより生徒のためという視点で、生徒・保護者・教員相互の連携を図れるよう PTA 四役会で協議できるようにしていきたい。
22	中学生、その保護者、中学校教員へ学校広報を図る。 (企画広報課)	本校の教育内容・教育活動についての広報を積極的に実施する。	中学校訪問では、本校の教育内容・教育活動の概要について説明し、オープンスクール、ホームページでより詳しい内容を発信することで、中学生に理解を深めてもらう。	学校ホームページの更新回数を月 15 回以上とする。	(評価指標による達成度) ホームページの更新回数が月平均 21.5 回以上 (活動計画の実施状況) 4 月から 1 月までの更新数 215 回(昨年度 185 回)	(達成度) A (所見) ホームページを定期的に更新することで、閲覧数も増加した。	類・コース、部活動等の内容を発信することができた。多い日は、アクセス数が 1 日あたり 3 万件を超えた。	オープンスクールのアンケートでは、本校のホームページを 4 割の中学生は見たことがなかった。 中学生に魅力的なホームページにする必要がある。